October
2019

# 洗礼を受け、派遣される

福音宣教のための特別月間（2019 年 10 月）

カトリック東京大司教区

†主の平和

教皇フランシスコの訪日が正式に発表され、喜びのニュースを受け取った私たちは、同時に台風15号の残した傷跡の中にいる方々に寄り添いながら日々の生活を送っています。

教皇フランシスコは、2019年10月を「福音宣教のための特別月間」として過ごすよう、世界の教会に向けて呼びかけられました。東京教区は、この特別月間を過ごすための助けとなるように願い、このパンフレットを作成しました。

内容は、「ともに喜びをもって福音を伝えるための祈り」、「ともに喜びをもって福音を伝える教会へ 『福音宣教のための特別月間』に向けての司教団の呼びかけ」、巡礼を実際に考える際の参考となるいくつかの教会の紹介、アジアの教会が共に祈り合うカレンダーです。

このカレンダーは、教皇庁宣教援助事業のアジアの責任者であるスリランカのB.R.Fernando神父が作成し、アジアの教会に共に祈り合うように呼びかけたものです。（各国の祈りの意向については、東京教区のウェブサイトをご覧ください）

特別月間をそれぞれの教会や共同体で工夫しながら過ごすようにお願いします。私は10月20日（日）の世界宣教の日の夕方、午後5時より東京カテドラル聖マリア大聖堂での晩の祈りを司式します。聖体を顕示し、聖体を礼拝し、聖体の前で黙想します。ご都合のつく方は、お集まりください。

教会行事やフランシスコ教皇の訪日準備に追われる中で、神との対話も大切にしながら、世界のキリスト者と心を合わせる10月といたしましょう。

東京大司教　タルチシオ　菊地　功



# ともに喜びをもって福音を伝えるための祈り

喜びの源である神よ、
あなたは、御子キリストを遣わし、
その受難と復活を通して、救いに導く喜びの福音を
この世にもたらしてくださいました。
また、あなたは、キリストの後に従う働き手を通して、
諸国の民に福音を告げ知らせ、どんな逆境にあっても、
キリストを信じる人々の喜びを支えてくださいました。
さまざまな困難に直面している現代社会の中で、
人々の救いに奉仕する教会を顧みてください。
キリストの救いの喜びを
新たな熱意、手段、表現をもって伝えることができるよう、
わたしたちを聖霊によって強めてください。
わたしたちの主イエス・キリストによって。
アーメン。

# ともに喜びをもって福音を伝える教会へ

「福音宣教のための特別月間」(2019年10月)に向けての司教団の呼びかけ

キリストにおいて兄弟姉妹である皆さんへ

## はじめに

カトリック教会は、毎年10月の最後から2番目の主日を、「世界宣教の日」と定めています。教皇フランシスコは、今年の10月を、「福音宣教のための特別月間」とすることを宣言されました[1]。この特別月間は、今から100年前、悲劇的な大戦後の1919年に当時の教皇ベネディクト十五世が「諸国民への宣教」を強調した使徒的書簡『マキシムム・イルド』と関連しています。そこでは、「聖なる生活と善行を通して、主イエスをより広く告知し、イエスの愛を広めることこそが宣教活動の目的」[2] であることが説かれています。そこで、教皇フランシスコは、全世界の教会が「喜びを特徴とする福音宣教の新しい旅の段階」[3] に向かっていくよう呼びかけています。

日本の教会は、教皇と福音宣教省の呼びかけ[4] に応えて、次に提示する事例を参考にしながら、創造的な取り組みを始めていきたいと思います。

## ①福音宣教をする教会の魂

教皇フランシスコは『福音の喜び』の中で、聖霊降臨の出来事を思い起こし、聖霊こそが、「福音宣教をする教会の魂」[5] であり、「聖霊の働きに対し恐れることなく自らを開いている福音宣教者」[6] となるために、日々、聖霊に祈ることを薦めておられます。

この度、「ともに喜びをもって福音を伝えるための祈り」を作りました。地元の観想修道会の兄弟姉妹の協力を願いつつ、全教区で、祈りによって宣教活動を支えていきましょう。

## ②イエスと出会い、ともに出向いていく

福音宣教の第一の動機、それはわたしたちが受けているイエスからの愛です[7]。イエスの愛を受け、その救いの喜びに生かされるために、わたしたちは、秘跡、とくにミサにおけるイエスとの人格的な出会いの恵みを大切にしましょう。また、聖書通読、みことばの分かち合い、黙想会、聖体礼拝、聖体訪問なども、そのための有益な助けです。

さらに、イエスとの人格的な出会いの喜びを、日常生活の中で神と隣人への愛として広げていくために[8]、わたしたちは出向いて[9] 社会の福音化に奉仕します。今日の日本の文化や社会の中には、すでに福音的な芽生えもありますが、多くの人々を弱い立場に追いやり、抑圧、差別している現実もあります。キリストの力でこの芽生えを育て、全ての人を大切にする社会と文化に変革する福音の担い手になりましょう[10]。

## ③殉教者や聖人の生き方に倣う

聖フランシスコ・ザビエルによって福音の種が蒔かれてから今日に至る歴史の中で、日本の教会は、日本26聖人殉教者をはじめ、聖トマス西と15殉教者、日本205福者殉教者、福者ペトロ岐部司祭と187殉教者、福者ユスト高山右近殉教者という数多くの模範を、「信仰の礎」としていただいています。

また、これらの殉教者の信仰を受け継ぎ、浦上四番崩れ(1867年)に端を発する明治初期のさらなる迫害によって、西日本の22か所に流配され、信教の自由のために命をささ

げた人々もいました。彼らの中で、津和野の証し人 37 名の列福に向けた動きも始まっています。

また、第二次世界大戦前後の困難の中で、宣教のために力を尽くした聖マキシミリアノ・マリア・コルベ司祭、尊者であるチマッチ司祭や北原怜子さんの生き方は勇気を与えています。日本の教会にとって、彼らの信仰の模範は、弱い人間を支える神のいつくしみと力を示す優れた証しです。

このような列聖・列福された聖人や殉教者、そして尊者の他に、とりわけ 250 年にも及ぶ禁教時代に互いに支え合って信仰を伝えた名もなき先達の信仰にならい、彼らをわたしたちの宣教活動の模範と励みといたしましょう。

### ④「諸国民の宣教」に関する研究や養成

第二バチカン公会議後の文書や教皇パウロ六世の使徒的勧告『福音宣教』（1975 年）の精神を土台にして、かつて、日本の教会で行われた「福音宣教推進全国会議（NICE）Ⅰ（1987 年）・Ⅱ（1993 年）」の提言を再読し、それ以降の宣教活動のあり方を振り返ることも有益です。

同時に、わたしたちが現在、置かれている文化、歴史、社会などの背景を考慮しながら、新しい視点で、日本の人々にキリスト教の救いの意味をどのように解き明かすことができるのかについて、ともに考え、分かち合いましょう。

また、司祭や修道者の召命を促進し、信徒の宣教者、カテキスタ、教会学校のリーダーなどの養成にも力を注ぎつつ、「一人ひとりが宣教者である」という意識を深めましょう。

### ⑤宣教活動に従事するキリスト者の支援や国内外の災害復興支援

宣教のために助け合った初代教会の信者たちの模範（使徒言行録 2・43 － 47）を思い起こしながら、世界の教会とともに、国境や地域を越えて宣教活動に従事するキリスト者を、祈りや献金などによって支援しましょう。「日本カトリック信徒宣教者会」の活動への支援、また「世界宣教の日」、「宣教地召命促進の日」、「世界こども助け合いの日」などに毎年行われている祈りや献金は、教皇庁宣教事業を支える手段となっています。

また、日本の教会全体を挙げて取り組んできた、東日本大震災やその他の自然災害からの復興支援と被災者への祈りを、これからも続けてまいりましょう。

## 結び

教皇フランシスコは 2019 年 11 月に日本を訪問する意向を示されています。わたしたちは、教皇の訪日を日本の教会に向けられた「神の恵みの風」とうけとめ、「全世界に行って…福音をのべ伝えなさい」（マルコ 16・15）というキリストの呼びかけに応えて、「新たな熱意、手段、表現をもって」、絶えず全力で福音宣教に取り組む決意を新たにしたいと思います。

2019 年 3 月 17 日
日本カトリック司教協議会

(1)「世界における宣教活動に関する使徒的書簡『マキシムム・イルド』発布 100 周年に向けた教皇フランシスコの書簡」（2017 年 10 月 22 日）
(2) 同上
(3) 教皇フランシスコ使徒的勧告『福音の喜び』1（カトリック中央協議会、2014 年）
(4) 教皇庁福音宣教省の書簡（Prot.N.4364/17）
(5)『福音の喜び』261
(6)『福音の喜び』259
(7)『福音の喜び』264
(8)『福音の喜び』262
(9)『福音の喜び』24
(10) 日本カトリック司教団「日本の教会の基本方針と優先課題」基本方針 2（1984 年 6 月 22 日）

# 関町教会（保護者：幼きイエスの聖テレジア）

【住所】練馬区関町北 2-11-7　【電話】03-3920-2211　【ホームページ】あり

**●教会紹介**

関町教会は 1957 年 5 月 30 日にケルン教区の援助を受けて設立された最初の教会です。設立の年、1957 年 10 月にはリジューのカルメル会修道院から幼きイエスの聖テレジアの聖遺骨を分与され、また 1960 年 3 月に聖ヨハネ 23 世教皇から日本人初の枢機卿として任命された土井辰雄大司教のローマ訪問の際に聖フランシスコ・ザビエルの聖遺骨も拝受することとなりました。

関町教会は二人の宣教の保護の聖人である聖フランシスコ・ザビエルと幼きイエスの聖テレジアの生涯から学びながら、「テレジアのように祈り、ザビエルのように伝えよう」という福音宣教の心を深めようと望んで、この教会を巡礼なさる方々を心よりお待ち申し上げています。

●主日のミサ時間：7:00　9:30
（10 月中は 9:30 のミサ中、聖遺骨を公開・展示いたします）
●聖堂の開堂時間：平日：10:00 ～ 16:00　信徒会館受付にお出で下さい。
土曜日：10:00 ～ 13:00



# 佐原教会（保護者：幼きイエスの聖テレジア）

【住所】香取市佐原イ 417　【電話】0478-52-4079

**●教会紹介**

佐原は、東京から東へ 100km に位置しています。中世や近世になって市街地の真ん中を通る小野川（利根川の支流）を江戸との舟運に利用した醸造業･米穀集荷業･肥料販売業・小売卸業など、農産物に係わる集散地としての発展があり、今でも往時の面影を残す建物が幾分残っています。

福音宣教の保護者である「幼きイエスの聖テレジア」を教会の保護者として、1951 年 11 月に献堂されました。教会の保護者は、千葉県の教会の宣教を見守る保護者でもあります。歴史的にも、文化的にも興味深い佐原の地を訪ね、教会に立ち寄られてはいかがでしょうか。

●主日のミサ時間：11:00
●聖堂の開堂時間：8:00 ～ 20:00

# 高輪教会（保護者：殉教者の元后聖マリア）

【住所】港区高輪 4-7-1　【電話】03-3441-5556　【ホームページ】あり

●教会紹介

徳川 3 代将軍家光は、キリシタン迫害政策を厳格に強化しました。1623 年 12 月 4 日、宣教師を含む信者 50 名は江戸市中を引き回され、東海道に沿った札の辻の小高い地で火刑に処せられました。

その中には、下総（千葉）6 万石の臼井城主の嫡男で、家康に仕えた原主水（はらもんど）もいました。キリシタンとわかり手足の腱を切られて追放された後も、江戸に逃れ外国人宣教師と活動を続けましたが、密告により捕らえられ、炎の中で神に命を捧げたのです。

その後数年にわたり、女性や子供、キリシタンをかくまった人々も巻きこんで、この地で 100 人近くが処刑され、江戸全体では 2,000 人が殉教しました。世にいう「江戸の大殉教」です。

当教会は殉教地に近いことから「殉教者の元后聖マリア」に捧げられ、記念碑が建てられています。また毎年 11 月下旬には、記念のミサが行われます。

●主日のミサ時間：18:30（土）8:00　10:00
●聖堂の開堂時間：7:00 ～ 18:00



# 多摩教会（保護者：聖マキシミリアノ・マリア・コルベ）

【住所】多摩市聖ヶ丘 1-30-2　【電話】042-374-8668　【ホームページ】あり

●教会紹介

1960 年代に東京都西部に、当時、日本最大規模 30 万人の住民人口を想定して構想された多摩ニュータウン。1971 年から入居が始まり、その中に信徒の方々も多くいました。その方々は、この広大な地域にカトリック教会が 1 つもないことに気づき、声をあげ、教区本部の検討を経て 1972 年に誕生しました。固定した聖堂を持たない「旅する教会」として、毎週日曜日、持ち回りでの各地域個人宅でのミサから活動を始め、その後何度か借家住まい、マンション住まいを経て、2000 年に現在地に献堂。それを機に、聖マキシミリアノ・マリア・コルベ殉教者を保護の聖人とする教会となりました。多摩ニュータウン内、唯一のカトリック教会として、現在に至っています。信徒総数 1,162 人（2018.12 月現在）。

●主日のミサ時間：18:30（土）　10:00
●聖堂の開堂時間：9:00 ～ 16:00（ホームページ参照）

# 潮見教会（保護者：蟻の町のマリア）

【住所】江東区潮見 2-10-5 【電話】03-3644-8189

**●教会紹介**

潮見教会の現在の聖堂は、1986 年 6 月 1 日の聖霊降臨の主日に献堂されました。

第二次世界大戦後、職もなく、住む家もない人々が隅田川の言問橋の近くに集まり「蟻の会」という共同体を作り、廃品回収で生計を立てていました。「蟻の町」自体はキリスト教とは直接的な関わりがあったわけではありませんでしたが、「蟻の町」と関わったゼノ修道士や北原怜子がキリスト者であったこともあって、「蟻の町」にキリスト教的な雰囲気がもたらされました。「蟻の町」は都有地にあったために立ち退きを余儀なくされ、東京都江東区深川８号埋立地に移転となりました。移転先に「枝川教会」が建てられました。その後、８号埋立地に「潮見」という地名がつけられ、教会も新聖堂献堂を機に「潮見教会」と名前を変え、今に至っています。

潮見教会の出発点は「蟻の町」です。建物の場所は変わりましたが、「蟻の町」を見守ってきた多くの方々を忘れず、その中心にいる「蟻の町のマリア」を名前に頂く教会です。

●主日のミサ時間：10:00
●聖堂の開堂時間：6:30 ～ 22:00



# 調布教会（保護者：聖ヨハネ・ボスコ）

【住所】調布市富士見町 3-21-12 【電話】042-482-3937 【ホームページ】あり

**●教会紹介**

調布市で宣教活動が始まったのは 1950 年、サレジオ神学院が現地に移転した時です。次第に信徒が増え、1967 年、調布教会が小教区として承認されました。

1926 年、日本に同会から最初に派遣されたのはヴィンチェンツォ・チマッティ神父です。チマッティ神父は最後の 15 年間を調布で過ごし、信徒のための最初の聖堂を建て教会の土台を築きました。比類ない優しさ、音楽の才能、邦人司祭の養成、出版事業などを通して宣教に貢献したチマッティ神父は 1965 年、86 歳で聖徳高い生涯を終え、1991 年その聖徳が認められ、聖座より尊者の称号が与えられました。チマッティ記念聖堂地下にご遺体が安置され、どなたでも訪れることができます。

チマッティ資料館には 950 ほどの楽譜、また戦前戦中の貴重な資料が展示されています。調布教会の信徒は、敷地内にこのような模範を持つ喜びを力として、チマッティ神父に倣いながら信仰生活と宣教に励んでいます。

●主日のミサ時間：19:00（土） 8:00 9:15（要確認） 10:30
第２日曜 14:00（英語）
●聖堂の開堂時間：8:00 ～ 17:00

# アジアの教会が共に祈り合うカレンダー

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1<br>バングラデシュ | 2<br>バングラデシュ | 3<br>聖地 | 4<br>聖地 | 5<br>インド |
| 6<br>インド | 7<br>日本 | 8<br>日本 | 9<br>カザフスタン | 10<br>カザフスタン | 11<br>韓国／北朝鮮 | 12<br>韓国／北朝鮮 |
| 13<br>レバノン | 14<br>レバノン | 15<br>マレーシア・シンガポール・ブルネイ | 16<br>マレーシア・シンガポール・ブルネイ | 17<br>ミャンマー | 18<br>ミャンマー | 19<br>パキスタン |
| 20<br>世界宣教の日 | 21<br>パキスタン | 22<br>フィリピン | 23<br>フィリピン | 24<br>スリランカ | 25<br>スリランカ | 26<br>台湾 |
| 27<br>台湾 | 28<br>ティモール | 29<br>ティモール | 30<br>ベトナム | 31<br>ベトナム | | |

福音宣教のための特別月間（2019 年 10 月）のロゴは、地球（直接的な地球を描いているわけではなく、福音宣教活動には障壁も境界もないため、透明で表現されています）を包む十字架のイメージ、この十字架は５つの鮮やかな色で表わされています。十字架は福音宣教の原動力であり、神と人間の交わりの道具であり、しるしです。

この５つの色は５大陸を象徴する色です。赤はアメリカ、緑はアフリカ、白はヨーロッパ、黄はアジア、青はオセアニアを象徴しています。

赤は、アメリカの殉教者の血を思い起こさせます。それは、キリスト教の信仰における新しい生活の種です。

緑は生命の色であり、成長、実り、若さと活力を象徴しています。また、神対徳の１つである希望の色でもあります。

白は喜びの象徴であり、キリストによって始まる新たな人生を示すものであり、多くの教会と聖人のおかげで育てられたヨーロッパが、福音宣教活動の力を取り戻すことに直面している挑戦を表わす色でもあります。

黄は光の色であり、真の光を呼び出すことでその光で養われます。

青は、私たちの渇きを癒し、神への道に導くいのちの水を象徴する色です。それは天の色であり、神が私たちのうちにおられることのしるし。

**カトリック東京大司教区**

〒112-0014　東京都文京区関口3-16-15　**TEL 03-3943-2301　FAX 03-3944-8511**